

< 大会特別規則 >

令和8年度

1. 試合方法について

① 1部ブロック トーナメント戦 9回戦

② 2部・3部・4部ブロック トーナメント戦 7回戦

※ 当連盟主催の大会で、2部、3部、4部では、指名打者ルールは適応しない。
(指名打者制については、別ページに掲載する。)

③ 試合時間は、1部ブロック 2時間00分。

2部・3部・4部ブロック 1時間30分とし、新しいイニングには入らない。

(尚、最終回に入って時間切れの場合は、試合終了まで実施する。)

同点の場合： 同点の場合はタイブレーク方式を行う。1死2,3塁（3塁走者は1番打者、2塁走者は2番打者）とし1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。なお、勝敗の決しない場合は抽選とする。

(抽選は、最終イニング出場選手9人により決する。)

④ 優勝戦について

1部ブロック・・・9回（2時間30分）。2部・3部・4部ブロック…7回

（2時間00分）までとし、同点の場合は上記タイブレーク方式を実施する。

勝敗が決しない場合は、継続打順でタイブレーク方式を勝敗の決するまで実施する。

2. コールドゲームについて

◦ 得点差による場合

1部ブロック・・・・・・・5回以降10点差7回以降7点差

2部・3部・4部ブロック・・・3回以降10点差5回以降7点差

◦ 日没・降雨の場合

1部ブロック・・・・・・・5回終了後適用する。（同点の場合は抽選により決する。）

2部・3部・4部ブロック・4回終了後適用する。（同点の場合は抽選により決する。）

◦ 時間切れ

試合が16時20分を経過した場合は大会運営上、時間切れとして試合を終了する。

3. 抗議できるのは、監督・主将・当該プレーヤーのうち1名とする。

(監督・主将を代行する場合は試合前に球審に申し出ること。)

4. 放棄試合は理由の如何を問わず当連盟より除名する。

5. 連盟の主旨に反したチームは、当連盟より除名する。

6. 背番号は0番より99番とし、監督は30番、主将は10番をつけるものとする。
 7. 本塁打の場合、走者を迎えるために攻撃側はベンチから出でてはならない。
 8. バットの「素振りリング」の使用を禁止する。
 9. {かくし球} 投手がサインを見るときは、プレートについて見ることになっている。
また球を持たない投手がプレートにつくことは禁じられているのでプレートのすぐそばで球を持たない投手がサインを見るような動作をした場合、かくし球は無効でボーグとする。
10. 足を高くあげてのスライディングは危険防止のため禁ずる。妨害となった場合は、走者アウト。
 11. {空タッチ} 空タッチを禁ずる。走者の妨害（よろめく。著しく速度がにぶる）となった場合は、オブストラクションとする。
 12. {コーティーシーランナー} スピード化をはかるため、当該プレーヤー9人の中から代走（打順の前位の者、但し投手を除く）を認めることとする。
 13. 試合はスピード一に行い絶対に無駄な時間を省くこと。
 - (1) 攻守交代は敏速にすること。
 - (2) 打者は打者席に速やかに入って攻撃姿勢をとること。
 - (3) 投手は捕手のサインをみる際必ずプレートについてサインをみること。
 - (4) 球審のボールカウントの宣言をまたず打者が一塁に歩こうとするような、無用な時間をかけぬこと。
 14. 投手は、捕手、その他内野手または審判員からボールを受けた後、走者がいない場合には12秒以内、走者がいる場合には20秒以内に投球動作を開始しなければならない。違反した場合、球審はただちにボールを宣言する。
なお、塁に奉制球を送球した時は、20秒の計測をリセットする。
 15. タイムは、プレーヤーの要求した時ではない。あくまでも審判員の認めた時である。
 - (1) 打者がタイムを要求する時期は投球の構えに入る前でなければならない。
 - (2) 打者は投手が投球の動作に入ったら打者席から出ることは許されない。
 16. 相手プレーヤーに野次的言語を発することを禁じる。
 17. もめごとなどの際、激昂のあまり審判員や相手プレーヤーに手をかけることを厳禁する。万一このような事態が起きたときは即失格とする。
 18. 打者への投球動作を起こしたならば、中断したり、変更したりしないで、投球を完了しなければならない。
 19. 守備側からタイムの要求で試合が停止された時、その間投手は捕手を相手に投球練習をすることは許されない。
 20. 投手交代の際の投球数は規則（8.03）に従い8球以下1分間以内とする。
(2回以後、投球数は4球以内とする。)

- 2 1. プレーヤー、審判員に対する個人攻撃を厳禁する。審判員または控え審判員が、再度注意を与えても聞かない時は退場させる。
- 2 2. ストライク・ボール・セーフ・アウト・フェア・ファウルなどの判定に対する抗議は厳禁する。
- 2 3. 打者がみだりに打席をはずした場合、審判員はタイムをかけず投手の投球に対し正規のカウントを宣言する。
- 2 4. 試合中スパイクのヒモを意図的に結びなおすためのタイムは認めない。
- 2 5. 内野手間の転送球は、一回り以内とし速やかに投手に返球すること。なお、試合が遅れているか、日没まで短時間しかない場合は、転送球を止めさせることがある。
また、試合参加人数が9人しかいない場合は、攻守交代時に外野手とキャッチボールすることは認めない。
- 2 6. 監督またはコーチが1試合に投手のもとに行ける回数は3回以内とする。
なお、延長戦は、1イニングに1回行くことができる。但し、投手交代の場合は、回数に含まない。
また、捕手を含む内野手が、1試合に投手のところに行ける回数を3度以内とする。
但し監督またはコーチと共に行った場合は除く。
- 2 7. 投手が手首に、リストバンド（サポーターなど）を使用することを禁止する。
なお、負傷で手首に包帯などを巻く必要のあるときは、球審の承認が必要である。
- 2 8. 申告敬遠四球は、守備側チーム監督が、打者を故意四球とする意思を審判員に示した場合に、打者は一塁に進塁できる。その時は、ボールデッドである。
- 2 9. 打者が頭部にヒット・バイ・ピッチを受けたときには、選手の安全確保を第一に、その程度を問わず球審は臨時代走の処置を行う。

<連盟規程細則>

1. 金属製バットの件： 公認マーク。
握りの上部5cmのところ“J・S・B・B”の刻印等がされているもの。
2. 捕手の防具：
捕手が守備につくときは必ずマスク、レガース、カップ、捕手用ヘルメット、プロテクターを着用すること。マスクはSGマーク合格品（2025年義務化）。
3. ユニフォーム、帽子及びストッキング、スパイク等について：
同一チームの各プレーヤー（監督、コーチ含む）は、同色、同形、同意匠のユニフォーム、野球帽とストッキング等を着用しなければならない。
スパイクの色は規定しない。（運動靴は認めない）
左袖に日本字またはローマ字による県名（埼玉又はSAITAMA）を記載すること。
(未記入でも、ユニフォーム更新時までは、経過処置として着用を認める。)

4. ヘルメット：

- ① 打者、次打者及び走者並びにコーチスボックスの選手は、特別許可法人（通産大臣）製品安全協会の認定基準による S・Gマークのついた連盟公認の軟式野球用ヘルメットを着用のこと。
- ② イヤーラップは、両側についたものが望ましい。

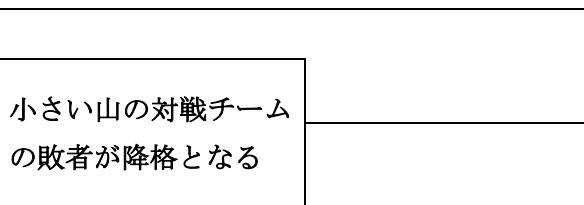
5. サングラス

サングラスは、大会本部の承認なしに使用できる。ただし、投手はミラーレンズサングラスの使用はできない。
また、野手がサングラスを帽子の底の上にのせることを認める。

< 大会運営に関する注意事項 >

1. 主將会議で説明または決められた事項は、チーム全員に必ず徹底すること。
 2. ベンチは組合せの若い方を一塁側とする。(ベンチの中に入れる人員は登録された監督選手他3名とする。安全のためベンチ内に子供は入れない。)
 3. 試合開始予定時刻30分前に各チーム選手は全員球場に集合していること。
 4. メンバー表提出時期について
第一試合は開始時刻の30分前、第二試合以降は前の試合の4回終了時にそれぞれ本部へメンバー表2部(フリガナをつける)を提出して登録名簿との照合を受ける。
その後、両チームの監督又は、主将により攻守の決定を行う。
 5. 試合開始予定時刻前でも前の試合が終了後20分で次の試合を開始する。
 6. 試合予定時刻になっても球場に来ないチームは棄権とみなす。
 7. ファールボールはベンチサイドで拾い、球審に届ける。(バツクネット前は攻撃側)
 8. 日程の変更は認めない。
 9. 使用球について、ナガセケンコ M ボールを使用する。
10. 雨天の場合又は試合日の前日が雨天の場合の問合せは、チーム責任者より行う。
連絡先 北部公園球場 電話048-421-2926
連盟ホームページにも、試合実施の有無は掲示します。
決定時刻 当日 午前7時00分を目途に決定します。
11. 競技者必携の競技者のマナーに関する事項9に基づき、
「投手が投手板に触れて投球位置についたら、投手の動揺を誘うような、大きな声を発しないこと。」をチーム内に周知徹底する。

=各部ブロック組替え方法=（平成22年度第112回春季大会以降、令和4年改訂）



[1部] 12チーム。前回大会、優勝・準優勝・三位はシード。

小さい山の敗者4チームは**[2部]**へ降格。（2部でシード）

[2部] 16チーム。ベスト4は**[1部]**へ昇格。小さい山の敗者8チームは**[3部]**へ降格。
(3部でシード)

[3部] 16チーム。ベスト8は**[2部]**へ昇格。小さい山の敗者8チームは**[4部]**へ降格。
(4部でシード)

[4部] 16チーム(+-)。ベスト8は**[3部]**へ昇格。

[1部・2部・3部・4部、各ブロックのチーム数固定に伴う処置]

各ブロックで不参加チームが出た場合（申込・抽選時点）

当該の不参加チーム・・・次回大会は一クラス下位のブロックとなります。

対戦相手チーム・・・不戦勝となります。

[決勝戦の時間変更]（平成28年度、第124回大会より）

1部・・・9回戦、2時間30分。2部・3部・4部・・・7回戦、2時間00分。

<戸田市野球連盟会長旗杯 >

参加資格 春季大会1部残留8チームによる大会

試合予定日 春季大会終了後の毎週日曜日

球場 北部市営球場及び、笛目公園球場

選手登録 会長旗杯の代表者会議に提出の選手登録用紙を使用。

試合方法 春季大会1部残留8チームによるトーナメント戦（春季大会同様）を実施する。

試合時間 2時間00分 9回戦。同点の場合及び、優勝戦については、春季大会同様とする。

<県大会派遣基準>

※ 春季大会・会長旗杯・秋季大会などの優秀チームのなかから、県大会出場チームの選考を役員会で審議決定致します。

翌年度派遣予定県大会 「選考大会・優勝チーム」
(南部予選会に勝利で県大会出場です。)

1. 東日本軟式野球大会南部予選会。(3月) 県大会(3月)・・「秋季大会」
2. 高松宮賜杯南部予選会。(4月) 県大会(5月)・・「会長旗杯」
3. 県民総合スポーツ大会。県大会(4月)・・「秋季大会」

当年度派遣予定県大会

4. 県下選抜軟式野球大会南部予選会。(7月) 県大会(8月)・・「春季大会」
 5. 南部連合会長旗杯。(10月)・・「春季大会」
- 福永健司南部予選会。(4月) 県大会(5月)・・・2027年まで未開催

付則 この規則は、令和7年2月2日から施行する。

『連盟規約抜粋』

第3章 会員

第6条 本連盟の会員は、年度毎に登録された一般チーム、学童チーム、個人会員（チーム構成員）、役員及び、審判員とする。

一般チームについては、次のいずれかに該当しなければならない。

1.職域チーム 官公庁、会社、商店、工場など同一企業に勤務する者によって編成するチーム

2.クラブチーム 埼玉県及び関東区域（東京都、千葉県、茨城県、群馬県、山梨県、栃木県）に居住または勤務する者によって構成するチーム。

第8条 会員としてのチームの個人会員（チーム構成員）は、監督及び主将を含め25名以内の競技者によって編成しなければならない。

大会でベンチに入れる人員は、上記以外にチーム代表者、マネージャー、スコアラー、トレーナー（有資格者）の個人会員登録者各1名とする。

第9条 3. チームと個人会員（チーム構成員）は、全日本軟式野球連盟の「野球ネット」への登録を必須条件とする。